

## アジア原子力安全東京会議の結果について

## アジア原子力安全東京会議参加者リスト

### 1. 正式参加国

議長： 河村軍備管理・科学審議官

豪： ジョーンズ外務貿易省副次官

マクドナルド原子力科学技術機構首席安全分析員

ハント在京大使館参事官

中国： 呉・外交部国際司参事官

陳・国家核安全局弁公室主任

冷・中国核工業総公司安防局副総工程師

インドネシア： クスノウォ国家原子力庁原子力発電炉安全技術センター所長

ブジャ外務省国際機関局担当官

スジャトミコ在京大使館一等書記官

日本： 稲川外務省総合外交政策局（軍備管理・科学担当）審議官

谷口資源エネルギー庁審議官

池田科学技術庁原子力安全局長

興科学技術庁原子力局審議官

マレーシア： イブラヒム科学・技術・環境省戦略国際関係部上級研究員

フィリピン： セヴェリーノ外務次官

バハ外務省アジア太平洋局長

サントス在京比大使館公使

ヨシサキ比原子力研究機構科学研究管理官

韓国： チュ外務省国際経済局長

チョン科学技術省原子力許可課長

アン外務省科学・資源課総括課長補佐

リー貿易産業エネルギー省原子力課課長補佐

リー原子力安全研究所原子力許可課長

チョン韓国電力公社原子力技術部部員

タイ： ユタマノップ科学・技術省原子力平和利用庁副長官

シヴァクア外務省国際機構局政務部一等書記官

チェワタツケ在京タイ大使館科学技術担当参事官

ウォンゴハナマス在京タイ大使館二等書記官

スパワレ在京タイ大使館三等書記官

ヴェトナム： グエン科学・技術・環境省次官

フング原子力委員会国際協力局長

## 2. オブザーバー

- 加： ゴレスキー外務省原子力・不拡散・軍縮実施庁課長補佐  
ニッケル在京加大使館政務部二等書記官
- 仏： パルフェ外務省核不拡散課長  
ピュジョラ在京仏大使館参事官  
ラヴィーニュ在京仏大使館参事官
- 独： フォン・ヴァーグナー外務省経済総局原子力・科学担当局長  
ブロイヤー経済省原子力産業課職員  
ブラウ環境・自然保護・原子炉安全省職員  
ケスラー在京独大使館参事官
- インド： キタニス在京インド大使館参事官  
アハマッド世界原子力発電事業者協会東京センター事務局テクニカル  
スタッフ
- 伊： ベネデッティ外務省経済総局第7部（原子力担当）部長  
モリーチ伊環境保護機関技術者
- パキスタン： ハーシュミ原子力委員会原子力安全・放射線防護局長  
アスラム在京パキスタン大使館技術担当公使
- ロシア： アダモフ・エネルギー技術研究所所長  
ヴァシリエフ外務省安全保障・軍縮局アジア安全保障上級参事官
- シンガポール： チュア・ユーピン環境省国際環境政策局政策課次長  
ステファン・チョン保健省科学研究部放射線科学課次長
- 英： ハースト貿易産業省原子力局長  
ローズ貿易産業省原子力産業部長  
リスコム外務省環境・科学・エネルギー部長  
ウィリアムズ保健安全執行部安全政策部長
- 米： ケスラー国務省軍事政務局上席調整官  
ストイバー原子力規制委員会国際計画局長  
ラッシュ・エネルギー省原子力科学技術部長  
ノヴィッチ同部長特別補佐（パシフィック・ノースウエスト国立研究所）  
タンスキ在京米大使館環境・科学技術担当二等書記官
- ウズベキスタン： アフンジャーノフ在日ウズベキスタン臨時代理大使  
サイダリエヴァ外務省政治分析予測局三等書記官
- EU： 木村彰駐日欧州委員会代表部科学技術担当官
- IAEA： ドマラツキー事務次長（原子力安全局長）
- OECD/NEA： トンプソン事務局長代理

## Chairman's Summary

1. "Tokyo Conference on Nuclear Safety in Asia" was held at the Ministry of Foreign Affairs of Japan in Tokyo on 5 November 1996. High-level officials, or Directors General representing the Governments of Australia, China, Indonesia, Japan, Malaysia, Philippines, Republic of Korea, Thailand and Viet Nam attended the conference. Representatives of Canada, France, Germany, India, Italy, Pakistan, Russian Federation, Singapore, United Kingdom, United States, Uzbekistan, the European Commission, the IAEA and the OECD/NEA also took part in the conference as observers. Considering the anticipated significant role of nuclear energy to be played in Asia in meeting its increasing future energy demand and considering the current trend of Asia that more countries are starting to utilize nuclear power generation, and also noting the fundamental principle of nuclear safety confirmed at the Moscow Summit that an absolute priority should be given to safety in the use of nuclear energy, participants of the conference exchanged views on specific measures to be taken to improve nuclear safety and on international cooperation for this purpose in the region.
2. Participants affirmed the principles of nuclear safety, which are recognized in such international frameworks as the Convention on Nuclear Safety, that high level of nuclear safety should be achieved and maintained in the use of nuclear energy and that the prime responsibility for such safety rests with countries that have nuclear installations. In this context, participants recognized the importance of ensuring that full regard for safety is paid in nuclear power generation in the Asian region.
3. Recognizing the significance of the Convention on Nuclear Safety which came into effect on 24 October 1996, participants encouraged countries that are not parties to the Convention to consider acceding to it and parties to the Convention to actively participate in its implementation, especially in the review process.
4. Participants recognized that it is important for each country to participate actively in the preparation of the Convention on the Safety of Radioactive Waste Management in order to ensure the early adoption of the Convention.
5. In order to enhance international transparency and openness in nuclear power activities, participants explored the possibility of reporting to the meetings referred to in paragraph 13 on

their own countries' plans of introducing nuclear power generation, the specific measures taken to ensure safety of nuclear power plants and the situation of radioactive waste management.

6. With a view to cooperating in strengthening regulatory regimes of Asian countries both in institutional and legislative aspects through exchange of information among the authorities, participants explored the possibility of holding meetings, as a part of the meetings referred to in paragraph 13, among representatives of regulatory authorities of participating countries on safety of nuclear power plants and other nuclear facilities and safe management of radioactive waste. Participants supported broad international contacts among regulatory bodies in these areas as well; for example, as in the recent proposal for an international forum or association for the like-minded regulators.

7. Participants explored the possibility of strengthening cooperation in the field of research on safety of nuclear power plants, safe management of radioactive waste and other nuclear safety related matters, establishing a database on these subjects and identifying new research cooperation projects concerning nuclear safety through exchange of information among research institutions. Participants discussed the applicability of the experience of the IAEA and the OECD/NEA in establishing relevant databases.

8. Participants emphasized the importance of developing human resources in the field of safety of nuclear power plants, safe management of radioactive waste and other nuclear safety related matters by promoting exchanges of experts, various seminars and training programs. Participants recognized the particular importance of upgrading the quality of personnel who are engaged in ensuring safety of nuclear power plants and other nuclear facilities. In addition, participants explored the possibility of providing opportunities for following up the results of such seminars and training programs.

9. Participants recognized and emphasized the importance of promoting nuclear safety culture and of continuing to facilitate the transfer of theoretical knowledge and practical skills for nuclear safety through activities discussed above and other relevant activities.

10. Participants recognized the need to establish an effective national nuclear liability regime when their countries introduce nuclear power plants. Participants recognized the idea that primary responsibility for nuclear liability rests with the operator. Participants also noted the positive development of the discussions of the IAEA Standing Committee on Liability for Nuclear

## Damage.

11. Participants examined what kind of cooperation in the Asian region is practical to facilitate each country's efforts in the field of nuclear liability.
12. Participants encouraged countries which are not parties to the conventions to accede as early as possible to the Convention on Early Notification of a Nuclear Accident and the Convention on Assistance in the Case of a Nuclear Accident or Radiological Emergency. Participants examined actions which enable themselves to give and/or receive notification and assistance smoothly and expeditiously in accordance with these conventions.
13. Based on the discussion on each agenda mentioned above, participants agreed to hold meetings on various aspects of nuclear safety in the future. Participants welcomed the offer of the Republic of Korea to host the next meeting.

# アジア原子力安全東京会議

## 〔議長声明仮訳〕

平成8年11月5日

1. 「アジア原子力安全東京会議」は、1996年11月5日に、東京の日本外務省において開催された。本会議には、オーストラリア、中華人民共和国、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、大韓民国、タイ、ヴィエトナムのそれぞれの政府を代表して、政府高官、或いは局長が出席した。また、カナダ、フランス、ドイツ、インド、イタリア、パキスタン、ロシア、シンガポール、連合王国（英）、アメリカ合衆国、ウズベキスタン、欧州委員会、国際原子力機関（IAEA）及び経済開発協力機構原子力機関（OECD/NEA）の代表もオブザーバーとして参加した。会議の参加者は、将来のエネルギー需要を満たすためにアジア地域において原子力が果たすことになる重要な役割を考慮しつつ、より多くの国々が原子力発電の利用を開始しているというアジア地域の状況を踏まえつつ、更には、原子力の利用に当たっては、安全が他のすべての考慮に優先しなければならないというモスクワ・サミットにおいて確認された原子力安全の基本原則に留意しつつ、アジア地域において原子力安全を向上させるために取られるべき具体的な措置、及びこのための国際協力のあり方について意見交換を行った。
2. 参加者は、原子力の安全に関する条約のような国際的枠組みにおいて認められている原子力安全に関する諸原則、即ち、原子力の利用に当たっては高い水準の原子力安全が達成し、維持されなければならない、またこのような安全確保のための主要な責任は各国政府が負うことを確認した。この関連で、参加者は、アジア地域における原子力発電については、安全に最大限の考慮を払った上でこれが行われるよう確保することが重要であることを認識した。
3. 参加者は、1996年10月24日付で発効した原子力の安全に関する条約の意義を認識しつつ、同条約を締結していない国がこれに加入するよう検討することを、また同条約を締結している国が積極的に条約の実施、特に検討プロセスに参加することを呼びかけた。
4. 参加者は、放射性廃棄物の管理の安全に関する条約が早期に採択されるようにするため、各国が同条約の作成作業に積極的に参加することが重要であることを確認した。
5. 参加者は、原子力活動の国際的な透明性及び公開性の向上のため、当該国の原子力発電の導入計画、原子力発電所の安全確保のために取った具体的措置、及び放射性廃棄物の管理状況について、第13パラグラフに述べる諸会合に対して報告を行



う可能性を検討した。

6. 参加者は、規制当局間の情報交換を通じて、組織面及び法制面からアジア諸国の規制体制を強化するために協力していくとの認識に立ち、原子力安全規制当局の代表による原子力発電所の安全に関する規制情報交換会合並びにその他の原子炉等の安全及び放射性廃棄物の安全な管理に関する規制情報交換会合を、第13パラグラフに述べる諸会合の一部として開催する可能性を検討した。参加者は、以上のような分野における規制当局間の幅広い国際的な接触、例えば、同じ意向を有する規制当局者のための国際的なフォーラム又は連合体についての最近の提案に示されているような接触について、支持を表明した。
7. 参加者は、研究機関間の情報交換を通じて、原子力発電所の安全、放射性廃棄物の安全な管理等原子力安全に係る研究協力を強化し、域内の原子力発電の安全、放射性廃棄物の安全な管理等原子力安全に関するデータベースの構築を進めるとともに、原子力安全に係る新規研究協力プロジェクトの発掘を進めることの可能性について検討した。参加者は、このようなデータベースの構築を進めるに当たって、IAEA及びOECD/NEAの経験を活用する可能性について議論を行った。
8. 参加者は、原子力発電所の安全、放射性廃棄物の安全な管理等原子力安全分野において人的交流を拡大し、各種セミナー・研修を拡充することによって人的資源の開発に努めることが重要であることを認識した。参加者は、特に原子力発電所等の安全の確保に従事する者の資質の向上が重要であることを認識した。また、参加者は、こうしたセミナー・研修の結果をフォローアップする機会を設ける可能性について検討した。
9. 参加者は、上記で議論された活動及びその他の関連する活動を通じて、原子力安全文化を醸成すること、及び、原子力安全のための理論的知識と実践的技能の技術移転を引き続き促進することの重要性を認識し、強調した。
10. 参加者は、原子力発電所の導入に当たっては、効果的な原子力損害賠償制度を国内で確立することが必要であることを認識した。参加者は、原子力損害賠償の主要な責任は事業者が負うとの考えを認識した。参加者はまた、原子力損害賠償に関するIAEA常任委員会の議論の前向きな進展に留意した。
11. 参加者は、各国の原子力損害賠償分野における各国の努力を支援するため、アジア地域において如何なる協力が可能かについて検討を行った。
12. 参加者は、原子力事故早期通報条約、原子力事故緊急事態援助条約を締結していない国が、両条約に可能な限り速やかに加入することを呼びかけた。参加者は、これらの条約に従って行われる通報及び援助が円滑かつ迅速に実施されるようにする



ための方策につき検討した。

13. 上記の各議題についての議論を踏まえ、参加者は、原子力安全の諸側面に関する諸会合を将来においても開催することに合意した。参加者は、次回会合を主催したいとの韓国の申し出を歓迎した。